

学校だよりの裏面を利用して、先生方が発行している学級だよりから文章をお借りして紹介しておりました。学級だけのものでは「もったいない」、全校のものにしようと。

今日はG3の学級だより「ラフ」から。

こんなに違う男の子、女の子

◆皆さんと話をしている、「うちの子は男の子なので…。」や「女の子だから…。」という話をよく聞くことがある。そこで今日は、男の子と女の子の違いについて述べたい。

◆男の子と女の子、当然、違う。

手紙や交換日記を始めるのは女の子。

男の子にはあまりいない。

男の子は集団になり、外で遊ぼうという傾向が強い。

文具や装飾品に興味関心を示すのは、女の子の方が顕著。

朝着ていく服を悩むようになったり、母親に服装のことを助言されても聞き入れなくなったりする。

男の子の場合、母親が選んだ服を迷いもなく着ていこうとする。

服装そのものにあまりこだわらない。

同じ服ばかり着ていこうとする子が男女ともにいるが、男の子の場合、服装への無頓着さからが主な理由で、女の子はお気に入りの服への執着が主な理由。

給食のおかわりをしたいのに言えなくなるのが女の子。（日本での話）

これは思春期に顕著だが、早い子は3、4年生くらいからその傾向が出てくる。

◆「ほめ方」「叱り方」もそう。

男女問わず、くどくどだらだら叱っては駄目だが、同じ叱り方をしても男の子、女の子で受け取り方が違って来る。

男の子場合、10回叱られても1回褒められれば立ち直る。

それに比べて、女の子は10回褒められていても1回叱られただけでひどく落ち込んでしまうことがある。

それだけ気持ちの切り替えが難しく、プライドがある。

学校生活の中で、高学年女子1人を全体の前できつく叱るなどしてはいけない。

男女平等は当たり前だが、叱り方、注意の仕方に性差を意識しなければならない。

◆『家庭教育ツーウェイ』の特集「こんなに違う男の子、女の子」。

これは、私が先輩の先生からもらった記事で、おもしろいと思ったので、ここにも記載する。この記事はだいぶ昔のものだが、今の子供たちにも通ずるところがある。

（この記事は紙幅の都合により割愛。興味ある方は山八先生に直接お聞きください）